

社会福祉法人 歩む会福祉会 2024年度 事業報告書

2025年3月31日

1. 法人概要

(1) 各事業所の運営

- ・あゆみ作業所（生活介護・日中一時支援）
所在地 深谷市柏合804-1
- ・ねぎぼうず作業所（生活介護）
所在地 深谷市榛沢新田6-1
- ・山ばと作業所（生活介護）
所在地 本庄市栗崎147-3
- ・スワン深谷（就労継続支援B型・日中一時支援）
所在地 深谷市宿根524-1
- ・歩む会美里ホーム（共同生活援助・短期入所）
所在地 美里ホーム 深谷市針ヶ谷1054-3
針ヶ谷ホーム 深谷市針ヶ谷767-2
- ・大きな樹（放課後等デイサービス）
所在地 本庄市栗崎660-1

(2) 役員等の構成

理事	監事	評議員
6名	2名	7名

(3) 理事会開催状況

開催日	報告・審議内容
第140回 2024年 6月 5日	理事長の職務執行状況の報告 2023年度事業報告及び決算書の承認の件 就労支援事業積立金の承認の件 評議員会の招集の件

第141回 2024年12月 2日	2024年度第1次補正予算について 大きな樹の運営規程の変更について スワン深谷の就労支援備品整備の積立金の 取り崩しについて 評議員会の招集について
第142回 2025年 3月18日	理事長の職務執行状況の報告 2024年度第2次補正予算の承認 2025年度事業計画及び収支予算書の承認 歩む会美里ホームの運営規程の変更 65歳以上の職員の雇用延長 評議員会の招集

(4) 評議員会開催状況

開催日	報告・審議内容
第75回 2024年 6月26日	2023年度事業報告及び決算の承認について
第76回 2024年12月17日	2024年度第1次補正予算の承認について
第77回 2025年 3月26日	2024年度第2次補正予算の承認の件 2025年度事業計画及び収支予算書の承認の件

(5) 職員配置状況・人事異動状況

2025年3月31日

	あゆみ作業所	ねぎぼうず作業所	山ばと作業所
職員数	27	11	10
採用者	3	0	1
退職者	2(1)	0	0
	スワン深谷	歩む会美里ホーム	大きな樹
職員数	7	19	7
採用者	0	7	3
退職者	0	5	1(2)

※()内は3月31日の退職者数(職員数に含む)

(6) 各事業所利用者状況

2025年3月31日

	あゆみ作業所	ねぎぼうず 作業所	山ばと作業所	スワン深谷
定員	30	20	20	20
利用者数	32	17	14	15
入所者	0	0	0	1
退所者	1(2)	0	1	1
	歩む会美里ホーム			大きな樹
	美里ホーム	針ヶ谷ホーム	短期入所	
定員	9	9	3	10
利用者数	8	9	6	13
入所者	0	0	-	2
退所者	0	0(1)	-	1

※ () 内は3月31日の退所者数(利用者数に含む)

2. 本年度の重点課題

(1) 事業内容等の見直しについて

2024年度障害福祉サービス等報酬改定により報酬単価や加算要件が改定され、各事業所とも対応に迫られた。基本報酬は就労継続支援B型を除き減額を余儀なくされ、それを如何に加算で補うかといった構造となり、加算の重要性が高まったことで都度の見直しを行わなければならなくなった。さらに、報酬区分や加算要件が複雑化したことで手続きや記録が煩雑となり、支援現場の事務量は増加することとなった。

生活介護事業所では、前年度の平均利用者数の算定方式が変更されたことで相対的に職員が加配となり、人員配置体制加算を算定することができた。重度障害者支援加算についても、新設された報酬区分によって算定できる単位が大幅に増えた。こうした重度者に手厚い体制が加算で評価されやすくなったが、一人の利用者が0.75人や0.5人と算定されても、そこには一人の支援者が必要なことに変わりはなく、職員を増やして事業内容を画期的に見直すということにはならなかった。

就労継続支援B型事業所では、基本報酬の単位が最も高い6:1の体系が新設されたことで、手厚い人員体制が評価され加算が算定された。それに加えて、平均工賃の算定方法の変更によって基本報酬は増えたが、そのことで本来の「一日の生活の中での労働」から、「単にお金を稼ぐための労働」へと内容自体が変わったり、利用者選別となったりしないように、B型事業所としての地域における役割を再確認した。

共同生活援助事業所では、世話人の配置基準4:1や5:1の基本報酬区分が廃止され、世話人の配置基準6:1のみになったことにより、世話人と生活支援員の配置を見直さざるを得なくなった。

放課後等デイサービスでは、算定要件が変更された児童指導員等加配加算や強度行動障害支援加算、個別サポート加算、延長支援加算などについて算定ができるように、職員配置や資格取得などの見直しを行った。

支援の現場では、コロナ禍からの脱却が進み行事やイベント等の取り組みが工夫して合同で行われ始めるなど、事業所の活動が少しずつ活発となり正常化に向かっている。

（２）人事評価制度の実施

人事評価制度の導入がスタートしたが、施行１年目のため評価者も被評価者も手探りだった。

人事評価制度は、職員の知識、能力、行動、態度、成果等について、職員一人ひとりの面談を通して一緒に考えるといった人材育成につながる仕組みとして、また、評価者による評価結果が処遇に反映する仕組みとして運用してきた。人事評価の意義と目的をどのように全体へ浸透させていくのか、また、評価者による偏りをどのように正して妥当性のあるものにしていくのかが、今後の課題として浮き彫りになった。

（３）新キャリアパス等級制度による人材育成

キャリアパス等級制度に沿って、職責や求められる能力に合った研修を行い、法人が求める人材の育成と行動基準の浸透を図った。また、人事評価制度を整備し、法人理念を職員が目にする場所に掲示して意識向上を図ったり、経験が浅い職員に対して、支援計画やケース記録の書き方についての教育体制を整備したりするなどの職場環境を整備した。

（４）業務継続計画（BCP）について

感染症対策を兼ねた研修や実地訓練等を実施し、業務継続計画（BCP）の周知と、非常災害時や感染症発生時についての意識向上を行ってきた。

３．本年度の主な施策

（１）経営について

2024年度報酬改定によって基本報酬はスワン深谷を除いて前年度減となったが、法人全体の自立支援給付費収益は前年度比で1,500万円増となり、全ての拠点区分で当期活動増減差額がプラスとなった。業績を押し上げたのは、処遇改善加算の加算率の引上げに加え、生活介護での前年度の平均利用者数の算定方式が変更されたことによる人員配置体制加算が算定できるようになったことや、重度障害者支援加算の新設された報酬区分での単価増によるところが大きい。しかし、加算を算定しやすくなったとはいえ、基本報酬の減額を加算で補うといった構造からすれば、不安定な加算頼みの経営とも言える。

その一方で、人件費は前年度比1,500万円増となった。これは人事コンサルティングによる新しい給与制度が運用を始めたことによる。財務成績分析、賃金分析、新給与制度の構築を経て、従来の職員の年齢や勤続年数を軸とした昇給制度から、能力の高い職員や

頑張っている職員の処遇に反映される仕組みが作られたが、この制度による効果は数年後に期待される。

また、施設整備については、各事業所で建物や設備の老朽化が顕著になってきているが、将来必要となる施設の改修に補助金が活用できないことは23年度から示されており、修繕に要する資金の積み立てを計画的に行うことが不可欠となった。

食事提供体制加算は継続されることとなったが、算定要件が大きく変わった。次回の報酬改定でどのように扱われるのか、要件が変更される可能性もあり、その存廃の懸念も含め動向が注目される。

（2）運営について

利用者が安心して利用できる環境を整備するため、意思決定の支援・権利擁護の配慮を組織運営の重要な柱としてきた。その一環として、虐待防止委員会を定期的開催し、「障害者虐待防止と対応マニュアル」を作成した。また、法人としての魅力を高めるべく、職員の専門性を生かした活動内容をホームページなどを通じて発信してきた。

グループホームでは、地域社会との連携が課題として認識されており、2025年度から義務化される「地域連携推進会議」の設置に向けて、すでに実践的な活動を展開している他施設からの報告を参考にしながら、25年度からの取り組みに向けて準備を進めてきた。

危機管理体制においては、自然災害および感染症発生時の運用指針に基づき、自然災害を想定した訓練や、感染症の発生とまん延を防止するための研修などを実施した。

ICT活用による業務効率化を目指し、先行してあゆみ作業所において業務支援システムを導入したが、他の事業所においては、システムを管理する体制が十分に整っていない現状を踏まえ、導入を見送る判断となった。

労務管理システムの導入は見送られており、従来どおり押印と申告による勤怠管理や、アナログな手法による給与計算を継続している。

（3）人事について

懸案となっている山ばと作業所管理者の後任については進展がなかった。また、人事評価制度の導入が予定されていたため人事異動は見送られ、改定された新就業規則と新給与制度を施行し、運用を開始した。

2024年度中の正職員の採用は、パート職員から正職員への転換も含めて2名で、1名はグループホーム経験者として美里ホームへ配属となり、美里ホームのパートから正職員への転換者1名はあゆみ作業所へ配属となった。パート職員は各事業所長が採用者を決定し、それぞれの就業場所で活躍していただいている。

（4）支援について

利用者が差別や虐待から守られ、あたり前の生活を安心して送れるよう、基幹相談支援センター主催などの研修に職員が参加し、専門知識と意識の向上に努め、丁寧な支援を心掛けてきた。権利擁護の観点からは、美里ホームにおいては、虐待防止業務改善計画に基

づき、職員体制の強化を図るとともに、質の高い支援を提供するための積極的な職員採用を継続的に実施した。また、支援向上に向けて、利用者満足度アンケートの実施が次年度に取り組めるように検討を進めてきた。

個別支援計画の策定においては、加齢や健康問題といった多様なニーズに対応するため、訪問看護サービスをはじめとする地域の様々なサービスと連携し、利用者の生活がより豊かで充実したものとなるように取り組んできた。職員一人ひとりが主体的に考え、意欲的に業務に取り組めるよう、キャリアパス等級制度とリンクした研修体系を作った。しかしながら、利用者の重度化や高齢化など複雑化する支援に対応するための人材育成には、依然として課題が残っている。

(5) 施設・設備の改善について

施設や設備の老朽化による整備について、以下のとおり検討された。

あゆみ作業所	照明LED化 屋根防水工事 車両 建具全般の修繕 フードプリンター
スワン深谷	店舗の改装
美里ホーム	エアコン 貯水槽 車両

24年度は各事業所で以下の施設や設備の故障が発生したため、その都度、修繕や整備を行った。

あゆみ作業所	避難口誘導灯及び信号装置 エアコン（事務室、食堂、 2階作業室） コピー機
ねぎぼうず作業所	和室エアコン 駐車場整備（樹木伐採） 白蟻消毒工事
スワン深谷	コールドテーブル アイスメーカー パンスライサー 製造室照明器具 2階女性用トイレ改修
美里ホーム	エアコン（複数居室） テレビ 発電機 浄化槽ブロワー 建具交換工事 外構修繕等工事 樹木伐採
大きな樹	冷蔵庫

車両は大きな樹と山ばと作業所との共用で10人乗りワンボックスを、ねぎぼうず作業所で事務用の軽車両を整備した。

4. 各事業所の事業報告

(1) あゆみ作業所

【サービス名】 生活介護

【定員】 30名

【開所日数】 263日

【延べ利用人数】 6,729名（前年度比 733名減）

【平均利用人数】 25.5名／日

【給付費収入】 87,729,816円（前年度比 4,861,075円増）

【利用者状況】

●年齢別在所者数

2025年3月31日現在（単位：人）

年齢	18～ 19 歳	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	現員	定員
男	0	3	5	6	6	0	2 0	3 0
女	0	1	5	4	1	1	1 2	
計	0	4	1 0	1 0	7	1	3 2	
平均年齢		4 1 . 5 6 歳						

●利用年数別在所者数

2025年3月31日現在（単位：人）

在所 年数	1年 未満	1～2年 未満	2～3年 未満	3～5年 未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15～20 年未満	計
男	0	1	0	0	3	16	0	20
女	0	0	0	1	2	9	0	12
計	0	1	0	1	5	25	0	32

●障害支援区分別在所者数

2025年3月31日現在（単位：人）

区分	2	3	4	5	6	計
男	0	3	4	6	7	20
女	0	2	3	4	3	12
計	0	5	7	10	10	32

●療育手帳程度別在所者数

2025年3月31日現在（単位：人）

程度	㊦	A	B	C	計
男	12	7	1	0	20
女	3	4	4	1	12
計	15	11	5	1	32

●身体障害者手帳程度別在所者数

2025年3月31日現在（単位：人）

程度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
男	3	0	0	0	0	0	3
女	0	2	0	0	0	1	3
計	3	2	0	0	0	1	6

2024年度報酬改定での基本報酬の減額対策として、定員を35名から30名に変更した。24年度は新規の利用者はなく、退所者は6月に1名と年度末に2名だった。

延べ実利用者数は、23年度が7,462名だったのに対して、24年度は6,729名と大きく減少した。これは、6月末の退所者の利用が4月からほとんどなかったことや、

グループホームでの新型コロナ発生を受けて、複数の利用者が通所を控えていたことなどが大きく影響した。定員に対する利用率は、定員を変更したため一概に比較はできない。在籍者数に対する利用率では、23年度が81.4%だったのに対して24年度は79.3%と、23年度より2.1ポイント下がった。

2024年度報酬改定の影響としては、定員を変更することによって基本報酬が上位の区分となり、大幅な減額となるところをある程度回避することができた。また、前年度の平均利用者数の算定方式が変更されたことで相対的に職員が加配となり、人員配置体制加算を算定することができた。重度障害者支援加算についても、新設された報酬区分によって算定される単位が大幅に増え、その結果、自立支援給付費は前年度比で約486万円の増収となった。しかし、基本報酬の減額を補填するために加算を如何に算定していくかといったことは常について回り、加算を算定することによって職員不足が解消されるわけでもなく、不安定な加算頼みの運営となった。

設備整備では、食堂と2階、事務室のエアコンの故障による入れ替えや、老朽化した避難口誘導灯及び信号装置一式の設備更新などを行い、大きな支出となった。

新たに施行された人事評価制度は、施行1年目のため評価する側もされる側も手探りとなった。評価をする際に、1次評価者と最終評価者とが協議したことで結果の妥当性は得られたが、その結果を如何に人材育成に活用し制度を定着させていくかは、キャリアパス等級制度の職員への理解と合わせてこれからの課題とされた。

非常事態時の対策としては、職員に事業継続計画を周知し、水や非常食などの点検と補充を行った。地域との関係は非常時の連携までには至っていないものの、隣接する八王子神社の祭りに授産製品販売の出店依頼があり、地域の子どもたちに綿菓子の無料提供も行うなどして、一歩ずつ関係を深めることができている。

生産活動では、法人の基本理念に則り「はたらく」ことを中心とした活動を提供し、年度末の臨時ボーナスを含めた作業工賃も前年度より増やすことができた。食品加工班では、焼き菓子コンテストで2連覇を果たしたことで製造が間に合わないほどの注文を受けることになり、利用者の負担を軽減するためにリードタイムを長くとるなどして対応した。また、外出やコロナ後初めての一泊旅行など作業以外の活動にも力を注ぎ、活動に減り張りがあるように工夫した。その他の班でも、例えば午前中は作業、午後はレクリエーションといったバランスを取りながら、あるいは、利用者一人ひとりが希望する作業ができるように配慮するなどして、利用者のニーズに沿った「はたらく」ことを中心としながらも、外出や日帰り旅行なども取り入れた活動を提供できている。

利用者の自治活動においては、目的意識をもって仲間の会を毎月開催した。活動の意味や利用者の意思決定を確認することに悩みながらも、企画、実施、振り返り、次に繋ぐ改善といったPDCAサイクルに沿った取り組みのルールが敷かれ、利用者を中心として利用者の立場に立った活動を行うことができた。

利用者のアート活動はますます活発となった。24年度も利用者の絵画が、きょうされんグッズデザインコンクールで入賞し、きょうされん「なかまのうた」ブランドの商品デザインに使われることになった。また、きょうされん埼玉支部北部ブロック主催のアート展では数々の作品を出展し、その中でも一泊旅行で目に焼き付けた5mのシャチの実寸大

絵画は、多くの方々に観てもらう機会と賞賛を得て刺激を受けることができた。

(2) ねぎぼうず作業所

【サービス名】 生活介護

【定員】 20 名

【開所日数】 263 日

【延べ利用人数】 3,954 名（前年度比 256 名減）

【平均利用人数】 15.0 名／日

【給付費収入】 49,136,703 円（前年度比 2,178,425 円増）

【利用者状況】

●年齢別在所要者数

2025 年 3 月 31 日現在（単位：人）

年齢	18～ 19 歳	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	現員	定員
男	0	1	0	7	1	1	1 0	2 0
女	0	0	3	2	1	1	7	
計	0	1	3	9	2	2	1 7	
平均年齢		4 7 . 0 歳						

●利用年数別在所要者数

2025 年 3 月 31 日現在（単位：人）

在所 年数	1 年 未満	1～2 年 未満	2～3 年 未満	3～5 年 未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15～20 年未満	計
男	0	1	0	0	0	9	0	10
女	0	0	0	0	1	6	0	7
計	0	1	0	0	1	15	0	17

●障害支援区別在所要者数

2025 年 3 月 31 日現在（単位：人）

区分	2	3	4	5	6	計
男	0	0	4	3	3	10
女	0	0	3	1	3	7
計	0	0	7	4	6	17

●療育手帳程度別在所要者数

2025 年 3 月 31 日現在（単位：人）

程度	㊤	A	B	C	計
男	2	6	1	1	10
女	3	2	1	0	6
計	5	8	2	1	16

●身体障害者手帳程度別在籍者数

2025年3月31日現在（単位：人）

程度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
男	0	0	0	0	0	0	0
女	1	0	0	0	0	0	1
計	1	0	0	0	0	0	1

2024年度の在籍者は定員20名のところ17名であった。23年度の延べ利用者数が4,210名だったのに対して24年度は3,954名で、定員に対する利用率は4.9ポイント減の75.1%だった。

環境整備では6月に白蟻駆除を行い、9月には庭の樹々の伐採をし、駐車場整備を行った。運動不足になってしまうという利用者が、広くなった場内を自ら歩いて往復し、安全にできるからいいねという声が寄せられた。2月には軽車両を整備する。

7月に本庄特別支援学校から教諭研修として、学校が夏休みに入った直後に来所予定だったが、職員がコロナ感染し体制上厳しくなりお断りをするようになった。また同時期はばたき支援学校での作業所説明会に参加予定だったが、こちらも体制が厳しく参加を見合わせた。

8月には、はばたき特別支援学校高等部の生徒1名が見学に訪れ、実習が1月に実施された。時期が同じく1月の下旬に利用者11名、職員2名、計13名に新型コロナ感染があり、県に事故報告を提出し、3日間の臨時休所を実施した。

10月の日帰り旅行では担当職員が視覚からの説明という事で、ホームページを活用し映像で希望先の情報提供を行う。最終的に希望先が2ヶ所に絞られ、再度映像を見て多数決を取った所、1票差で鉄道博物館に決まる。当日、会場内は学校の遠足と重なり混雑はしていたが、利用者は楽しい思い出を作れた1日となる。

アート活動では、自分が考えるデザインを時間をかけて作り出していた。マイクスタンドやキャラクターの刺繍、空き箱を使つてのドラムの制作、絵を描く場面では色使いに幅が出て、色合いが豊かになってきている。作品展に出展し、利用者と鑑賞に出向き、他にも出展している作品を観ることで、向上心へと繋がってきている。

ヒヤリハットは大きな事故に繋がらないよう、職員会議でその時、環境等を再度確認し合い共有してきた。

年度末のBCPの職員研修では、万が一の時の職員の対応について、利用者が不安に駆られることがないように気持ちをしっかり持つ事の大事さや、日頃からの備品管理の必要性の理解を共有することができた。

(3) 山ばと作業所

【サービス名】 生活介護

【定員】 20名

【開所日数】 263日

【延べ利用人数】 3,221名（前年度比 492名減）

【平均利用人数】 12.2名／日

【給付費収入】 37,064,820 円（前年度比 1,455,520 円増）

【利用者状況】

●年齢別在所要者数

2025年3月31日現在（単位：人）

年齢	18～ 19 歳	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	現員	定員
男	0	3	2	0	1	0	6	2 0
女	0	2	1	5	0	0	8	
計	0	5	3	5	1	0	1 4	
平均年齢		3 5 . 0 歳						

●利用年数別在所要者数

2025年3月31日現在（単位：人）

在所 年数	1年 未満	1～2年 未満	2～3年 未満	3～5年 未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15～20 年未満	計
男	0	0	1	1	2	2	0	6
女	0	1	0	0	1	6	0	8
計	0	1	1	1	3	8	0	14

●障害支援区分別在所要者数

2025年3月31日現在（単位：人）

区分	2	3	4	5	6	計
男	0	1	3	1	1	6
女	0	1	3	2	2	8
計	0	2	6	3	3	14

●療育手帳程度別在所要者数

2025年3月31日現在（単位：人）

程度	㊤	A	B	C	計
男	4	1	1	0	6
女	3	2	2	1	8
計	7	3	3	1	14

●身体障害者手帳程度別在所要者数

2025年3月31日現在（単位：人）

程度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
男	0	0	0	1	0	0	1
女	0	0	1	0	0	0	1
計	0	0	1	1	0	0	2

新しい利用者の入所は無く、6月に1名が退所した（グループホームを利用していた利用者が体調を崩し、県外の医療型のグループホームを利用することになり、同時に山ばと

作業所を退所することになった)。在籍者数は14名となっている。23年度の延べ利用者が3,713人だったのに対して24年度は3,221人で、定員に対する利用率は7.8ポイント減の61.2%だった。在籍者数に対する利用率は、23年度は87.6%、24年度は86.0%と1.6ポイントの減となった。利用率減の理由は、退所した利用者が入院により登所日数が少なかったためである。自立支援給付費は23年度より145万円の増になった。理由としては、主に人員配置体制加算がついたことや3名の利用者に重度加算がついたこと(内、1名は区分4)があげられる。

職員は6月に1名を採用し、職員体制は改善された。しかし、それ以降の応募者がなかったため、来年度4月の入所希望者1名を案心して受け入れる職員体制が整わず、受け入れることができなかった。来年度はさらに募集に力を入れていく。

中班、外班の区分けを無くして、利用者がやりたい活動を選べるよう、午前と午後の活動開始前に活動内容を提示し、利用者が体調や気持ちを考えて自分で決められるようにした。時には利用者の様子を見ながら職員が提案することもある。職員の連携はまだ十分ではなく来年度の課題となる。

事業継続計画(BCP)は研修を行い、その中で備蓄品などについて職員間で意見交換ができて、自分事としてとらえられたことは良かった。今後も継続して研修等を行い、計画を実効性のあるものに近づけていく。感染症対策では初めて利用者を交えて看護師による職員の手洗い講習会(説明と訓練)を行った。利用者は全体を通して真剣に取り組んでいた。職員も、利用者と一緒にすることでより理解が深まった。今後も感染症講習会(訓練)を行っていく。

職員研修では、1名がねぎぼうず作業所で2日間、職員現場実習を行った。また合同法人研修に1名参加し、レポート作成を行った。

人事評価制度は現在、評価が終わっていない状況で、職員への浸透はできていない。来年度から職員への浸透を図る。

次期管理者の育成は、来年度も継続課題となる。

(4) スワン深谷

【サービス名】 就労継続支援B型

【定員】 20名

【開所日数】 279日

【延べ利用人数】 3,549名(前年度比 255名増)

【平均利用人数】 12.7名/日

【給付費収入】 32,389,630円(前年度比 2,603,358円増)

【利用者状況】

●年齢別在籍者数

2025年3月31日現在（単位：人）

年齢	18～ 19 歳	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	現員	定員
男	0	3	1	3	0	0	7	20
女	1	0	1	4	2	0	8	
計	1	3	2	7	2	0	15	
平均年齢		37.6 歳						

●利用年数別在籍者数

2025年3月31日現在（単位：人）

在所 年数	1年 未満	1～2年 未満	2～3年 未満	3～5年 未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15～20 年未満	計
男	0	0	1	1	1	2	2	7
女	1	0	1	1	0	2	3	8
計	1	0	2	2	1	4	5	15

●障害支援区分別在籍者数

2025年3月31日現在（単位：人）

区分	2	3	4	5	6	計
男	0	7	0	0	0	7
女	2	3	2	1	0	8
計	2	10	2	1	0	15

●療育手帳程度別在籍者数

2025年3月31日現在（単位：人）

程度	㊦	A	B	C	計
男	0	1	6	0	7
女	1	1	4	2	8
計	1	2	10	2	15

●身体障害者手帳程度別在籍者数

2025年3月31日現在（単位：人）

程度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
男	0	0	0	0	0	0	0
女	1	1	0	0	0	0	2
計	1	1	0	0	0	0	2

2024年度も新規の利用者を1名迎えることができ、在籍人数は一時16名となったものの、休所が続いていた利用者1名が退所となり15名となった。利用状況は、延べ利用人数は3,549名、在籍者数に対する利用率は84.5%で、23年度の82.0%から2.5ポイント増となった。給付費収入については、今回の報酬改定の見直しで、基本報酬

の評価基準となる平均工賃の算定方法が変更されたことや、人員配置6：1（利用者6人に対して支援員1人）の体系が新設されたことで、より上位の報酬区分となった。それにより、給付費収入は前年度より260万円増となり、経営状況は着実に改善に向かっている。

生産活動では、イベントや注文販売等による製造量がコロナ以前の状態に戻ってきた。なかでも深谷中学校からの依頼で、学校キャラクター「ふかまる」をパンで製造し、学校給食として提供する「ふるさとメニュー」といった新しい取り組みにチャレンジした。試作から利用者にも参加してもらい、職員も利用者も共に良い経験となった。また、売り上げは23年度と同等の水準を保つことができた。光熱費や原材料費等の高騰が続く状況であったが、利用者に冬期と年度末とにボーナスを支給し、就労支援整備積立も行うことができた。利用者1名あたりの月額平均工賃は30,911円で、前年度の28,113円を上回ったことで、次年度の基本報酬が上位の区分となることが見込まれた。

備品整備については、就労支援整備の積立金を取り崩し、経年劣化で使用できなくなったコールドテーブル、アイスメーカー、パンスライサーの入れ替えを行った。また、製造室の照明器具の整備も行った。

利用者の受け入れでは、特別支援学校の作業所フェアや深谷市の作業所フォーラム等に参加したことで、学生実習の受け入れや作業所見学の数度は23年度より増加した。

利用者の自治活動では、仲間の会の役員が中心となるよう取り組んだ。行事の計画は年間予定を立て、それに従って進行できるようにした。また、会議の議題を事前に仲間の会の役員会で共有することで、個々の意見について議論できる時間が持てるように工夫した。

（5）歩む会美里ホーム

【サービス名】 共同生活援助・短期入所

【定員】 18名

【開所日数】 365日

【延べ利用人数】 5,517名（前年度比 117名減） / 短期入所 194名（前年度比 177名増）

【平均利用人数】 15.6名／日

【給付費収入】 58,881,556円（前年度比 4,262,747円増）

【利用者状況（共同生活援助のみ）】

●年齢別在所者数

2025年3月31日現在（単位：人）

年齢	18～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	現員	定員
男	0	0	2	4	3	0	9	9
女	0	0	2	4	2	0	8	9
計	0	0	4	8	5	0	17	18
平均年齢	45.5歳							

●利用年数別在所者数

2025年3月31日現在（単位：人）

在所 年数	1年 未満	1～2年 未満	2～3年 未満	3～5年 未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15～20 年未満	計
男	1	0	1	0	0	2	5	9
女	0	0	0	0	0	3	5	8
計	1	0	1	0	0	5	10	17

●障害支援区分別在所者数

2025年3月31日現在（単位：人）

区分	2	3	4	5	6	計
男	0	1	3	0	5	9
女	0	0	3	3	2	8
計	0	1	6	3	7	17

●療育手帳程度別在所者数

2025年3月31日現在（単位：人）

程度	㊦	A	B	C	計
男	5	4	0	0	9
女	3	2	2	0	7
計	8	6	2	0	16

●身体障害者手帳程度別在所者数

2025年3月31日現在（単位：人）

程度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
男	0	1	0	0	0	0	1
女	2	0	1	0	0	1	4
計	2	1	1	0	0	1	5

2024年度の入居者数は、美里ホームが8名、針ヶ谷ホームが9名（3月31日に1名退所）利用率は84.4％（23年度86.8％）、短期入所利用率は16％（23年度0.1％）だった。

24年度も、虐待の再発防止に向けた業務改善計画に基づき支援を続けてきた。具体的には、虐待防止のためのセルフチェックを年2回実施し、職員一人ひとりが自身の支援を振り返る機会を設けた。また、基幹センターうららによる虐待防止研修や動画研修を通して、職員の意識向上を図り、日々の支援に活かすことで再発防止に努めた。さらに、深谷市グループホーム部会が主催する研修にも積極的に参加し、利用者の発達や障害に関する理解を深めるとともに、他事業所の支援員と悩みや困りごとを共有することで、多角的な視点から支援を見つめ直すことができた。

職員の定着とコミュニケーションの強化は引き続き重要な課題として取り組んだ。具体的には、定期的な個人面談や意見交換などを実施したが、期待した結果には至らず、依然として職員の定着は難しい状況にあった。

美里ホームの運営では、これまで平日と月2回の日曜日を開所していたが、3月以降、職員の人員不足のため日曜日の宿泊サービスを休止せざるを得ない状況となっている。今後も、全日開所に向けて職員の確保に尽力していく。

利用者が安心して暮らせるホームづくりに向けては、利用者の意向を尊重した支援を心がけた。外出先やお楽しみ会の内容を利用者と話し合って決定したほか、お手伝いの方法や入浴の順番といった日常生活に関わる事柄についても、利用者の意見を伺いながら決定した。利用者主体で生活が展開できるよう、常に利用者の声に耳を傾け、意思確認を行いながら支援を実施してきた。

情報共有と職員間の連携強化を図るため、毎月、常勤会議を開催し、美里ホームと針ヶ谷ホーム双方の運営状況や利用者の支援に関する情報を共有し、課題解決に向けた協議を行った。会議で決定した事項は、各ホームの職員会議で報告し、情報伝達を図った。また、食事作りや力仕事（蜂の巣の駆除）など、両ホームの職員が協力して進めてきた。

地域社会のニーズに応えるため、短期利用者の受け入れを積極的に進めてきた。24年度は、美里ホームで4名、針ヶ谷ホームで2名の短期利用者を受け入れ、美里ホームの短期利用者1名については、今後入居を予定している。

職員の専門性向上と組織の活性化を目指し、人事評価制度を導入した。制度の導入にあたっては、職員に対し丁寧に説明を行い、目標設定と面接を実施した。

（6）大きな樹

【サービス名】 放課後等デイサービス

【定員】 10名

【開所日数】 263日

【延べ利用人数】 2,080名（前年度比 114名減）

【平均利用人数】 7.9名／日

【給付費収入】 21,833,909円（前年度比 1,520,419円増）

【利用者状況】

●年齢別在所者数

2025年3月31日現在（単位：人）

年齢	小学部	中学部	高等部	現員	定員
男	1	2	3	6	10
女	3	2	2	7	
計	4	4	5	13	

●療育手帳程度別在所者数

2025年3月31日現在（単位：人）

程度	㊤	A	B	C	計
男	2	4	0	0	6
女	1	2	3	1	7
計	3	6	3	1	13

2024年度の報酬改定に合わせて体制整備や必要な資格の取得を行った。算定できる加算を見直し、職員には強度行動障害支援者養成研修（実践研修）を受講してもらい、強度行動障害及び個別サポート加算Ⅰを算定した。また、サービス提供時間中の児童指導員を確保し、1日開所日の場合は延長支援加算の算定も行った。サービス提供時間については現状を維持し、土曜日や学校の長期休業中に延長支援体制がとれるように人員の配置を行った。

放課後等デイサービスの方法として、発達支援の5領域（生活・感覚・認知・コミュニケーション・社会性等）の視点を網羅した総合的な支援を提供することが運営基準に明記された。そのため、支援計画の様式を見直して児童一人ひとりのニーズにあった計画を作成した。24年度から公表が必要とされた支援プログラムや自己評価表等を新たにまとめ、保護者に配布してホームページにも公開した。

新規の児童は他の放デイと併用している児童を含め、新たに2名迎えることができた。児童の募集についてはホームページやSNSを活用して発信し、次年度以降の利用希望者からご連絡を頂くことができた。

一日外出（わたらせ渓谷鉄道乗車、大洗水族館、華蔵寺公園遊園地等）や行事（お花見、スワンベーカーリーの販売、ローソン移動販売、山ばと作業所合同夏祭り、ハロウィンパーティー、山ばと作業所の庭でみかん狩り、あゆみ作業所の畑で芋堀り、クリスマス会、初詣等）、制作活動（鯉のぼり、母の日のプレゼント、陶芸、書初め、年賀状等）、調理活動（ホットドック、たこ焼き、わらびもち、クレープ、ピザ、ケーキ、恵方巻き等）を行った。集団活動を中心に行い、休憩やお迎え時間の際は自由活動時間とし、放課後や長期休業中等に児童がリラックスしてすごせる場を作った。

保護者向けに法人内事業所見学会を実施した。24年度はスワン深谷を見学し、見学後に作業所の給食を試食していただく時間を設けた。給食を食べながら児童のことや将来のことについて参加者同士で話し合う機会を作ることができた。

24年度より児玉郡市の自立支援協議会子ども部会に参加し、地域の他事業所や行政職員との情報共有、地域での課題や児童に対する支援の悩み等話し合う機会を作ることができた。

5. 年間行事について

2024年度の行事については、コロナ禍で停滞していた行事やイベント等が、福祉会全体や複数事業所合同で開催されはじめたことに特徴があった。

福祉の店

ここ数年、新型コロナウイルス感染拡大を予防するため、各行事の開催を自粛してきた。2024年度は感染状況を勘案し、福祉会全体で長年取り組んできた福祉の店を「リスタート」とし、開催実現に向け動いた。様々な活動の自粛をしている期間に福祉の店を知る職員もほとんどいなくなってしまうため、従来の福祉の店を知る職員を中心に企画した。

また、会議を進めていくきっかけを作るため、代表者会議で会場となる深谷グリーンパークの利用予約をしたうえで、指示書を作成した。開催に向け担当者による会議を重ね、出店者とのやり取りや協賛いただける方々とのやり取りなど、慣れていない職員は苦戦する場面も見られた。時間を費やしながらも開催に向けて各事業所で準備を進めてきたが、当日は天候に恵まれず中止となってしまった。

3 作業所合同 秋の大運動会

仲間の会主導であゆみ作業所、ねぎぼうず作業所、山ばと作業所の3作業所合同で運動会を開催した。会場や日程、競技内容について仲間の会役員による話し合いを重ね、利用者の意見が尊重されるように職員はサポートに徹し、よりよい運動会の実現に努めた。会場を使用する際の注意事項に悩みながらも、利用者が楽しいと思える時間を作り出すことができた。

二十歳の集い

秋の大運動会の成功を機に二十歳を迎える利用者たちをお祝いするため、あゆみ作業所、ねぎぼうず作業所、山ばと作業所、スワン深谷の4事業所合同で「二十歳の集い」を開催した。開催に向け、分掌担当者だけでなく各事業所から利用者の担当も選出し、当日の企画進行に力を発揮してもらった。二十歳を迎える利用者のご家族にも参加していただくことができた。